

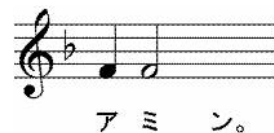
## 主 日 前 晩 課

### 第2調

注意 譜面中、五線譜上に  $\parallel\text{o}\parallel$  とある部分は、その音程を保ちながら、その部分の歌詞（祈禱文）が持つ言葉の自然なリズムに則って歌うことを意味しています。ただ早く歌ってしまったり、棒読みになってしまったりしないよう、気をつけてください。この聖歌譜はそのために、歌詞の意味をとることが容易になるよう漢字を多く用いて作成しています。

2023年10月 釧路管轄司祭ステファン内田 作成

司祭) われら かみ つね あが ほ いま いつ よよ  
我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、



司祭) きた われら おう かみ こうはい  
來れ、我等の王・神に叩拜せん、

きた われら おう かみ こうはいふふく  
來れ、ハリストス・我等の王・神に叩拜俯伏せん、

きた われら おう かみ まえ こうはいふふく  
來れ、ハリストス・我等の王と神の前に叩拜俯伏せん、

きた かれ こうはいふふく  
來れ、彼に叩拜俯伏せん、

【 第103 聖詠 (首誦聖詠：我が靈よ主を讃め揚げよ) 】

わ が た ま し い よ お、 しゅ を ほ め え あ げ よ 。  
我 靈 主 讃 揚

しゅ よ、 なんぢ い は あ が め ほ め え ら る 。 しゅ 主  
主 爾 崇 讚

わ が か み よ、 なんぢ は い た っ て お お い な り 。  
我 神 爾 至 大

しゅ よ、 なんぢ い は あ が め ほ め え ら る 。 な 爾  
主 爾 崇 讚

ん ぢ は こ お え い と い げ ん と を こ お む う れ り 。  
光 榮 威 嚴 被

しゅ よ、 なんぢ い は あ が め ほ め え ら る 。 や ま 山  
主 爾 崇 讚

の い た だ あ き に い み づ た つ う み い づ た 立  
嶺 水 立

つ 。 しゅ うよ 、 なん ぢのしわざあは あ き い い な  
主 爾 工 業 奇 異

り 。

やまの あいだ あに い み づ な が る う、 み い  
山 間 水 流 水

づ なあが る 。 しゅ うよ 、 なん ぢのしわざあは あ き い  
流 主 爾 工 業 奇

い な り 。

み な ち え を も っ て つ く れ り ち え  
皆 智 慧 以 作 智 慧

を も っ て つ く れ り 。

こ お え い は な ん ぢ ば ん ぶ つ を つ く り し しゅ に い き  
光 榮 爾 萬 物 作 主 歸

す 。

こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん に き す 、 い ま も  
光 榮 父 子 聖 神 歸 今

い つ も よ よ に 、 ア ミ ン 。

何 時 世 世


 アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、かみ  
 神


 よこうえいはなんぢにきす。  
 光 榮 爾 歸


 アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、かみ  
 神


 よこうえいはなんぢにきす。  
 光 榮 爾 歸


 アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、かみ  
 神


 よこうえいはなんぢにきす。  
 光 榮 爾 歸

【 大聯禱 】

司祭) <sup>われらあんわ</sup> 我等安和に<sup>しゅ いの</sup>して主に禱らん、


 しゅあわれめよ。  
 主 憐

司祭) <sup>うえ</sup> 上より降る安和と我等が<sup>たましい</sup> 靈の救<sup>すくい</sup>の爲に<sup>しゅ いの</sup>主に禱らん、


 しゅあわれめよ。  
 主 憐

司祭) <sup>ぜんせかい</sup> 全世界の安和、<sup>あんわ</sup> 神の聖なる<sup>かみ</sup> 諸教會の<sup>せい</sup> 堅立、<sup>しよきようかい</sup> 及び衆人の<sup>けんりつ</sup> 合一の爲に<sup>およ</sup> 衆人の<sup>しゅうじん</sup> 合一の爲に<sup>ごういつ</sup> 主に<sup>ため</sup> 禱らん、


 しゅあわれめよ。  
 主 憐

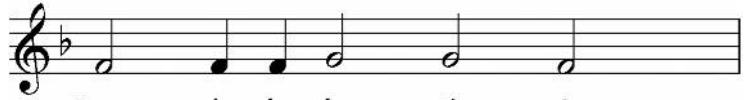
司祭) <sup>こ</sup> 此の聖堂、及び<sup>せいどう</sup> 信と<sup>およ</sup> 慎と<sup>しん</sup> 神を畏る<sup>つつしみ</sup> 心とを<sup>かみ</sup> 以て<sup>おそ</sup> 此に<sup>こころ</sup> 来る者の爲に<sup>もつ</sup> 主に<sup>ここ</sup> 禱らん、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

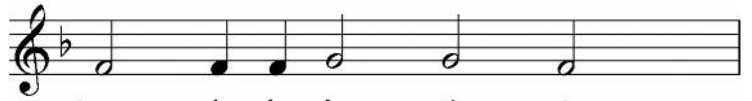
司祭) 教 會 を 司 る 尊 貴 なる 我 等 の 全 日 本 の 府 主 教 セ ラ フ ィ ム 、 司 祭 の 尊 品 、 ハ リ ス

ト ス に 因 る 輔 祭 職 、 悉 く の 教 衆 、 及 び 衆 人 の 爲 に 主 に 禱 ら ん 、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) 我 國 の 天 皇 、 及 び 國 を 司 る 者 の 爲 に 主 に 禱 ら ん 、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) 此 の 都 邑 と 凡 の 都 邑 と 地 方 の 爲 、 及 び 信 を 以 て 此 の 中 に 居 る 者 の 爲 に 主 に 禱 ら ん 、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) 氣 候 順 和 、 五 穀 豊 穰 、 天 下 泰 平 の 爲 に 主 に 禱 ら ん 、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) 航 海 する 者 、 旅 行 する 者 、 病 を 患 う る 者 、 艱 難 に 遭 う 者 、 擄 と な り し 者 、 及 び

彼 等 の 救 の 爲 に 主 に 禱 ら ん 、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) 我 等 諸 の 憂 愁 と 忿 怒 と 危 難 と を 免 る が 爲 に 主 に 禱 ら ん 、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) 神 よ 、 爾 の 恩 寵 を 以 て 、 我 等 を 佑 け 救 い 憐 み 護 れ よ 、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) <sup>しせいしけつ</sup> 至聖至潔にして <sup>いた</sup> 至 <sup>さんび</sup> りて <sup>われら</sup> 讚美たる我等の <sup>こうえい</sup> 光榮の <sup>ちよさい</sup> 女宰、 <sup>しょうしんちよ</sup> 生神女、 <sup>えいていどうちよ</sup> 永貞童女マリヤと、

<sup>しよせいじん</sup> 諸聖人を <sup>きおく</sup> 記憶して、 <sup>われらおのれ</sup> 我等己の <sup>みおよ</sup> 身及び <sup>たがい</sup> 互に <sup>おのおの</sup> 各の <sup>み</sup> 身を以て、 <sup>もつ</sup> 並に <sup>ならび</sup> 悉くの <sup>ことごと</sup> 我等の

<sup>いのち</sup> 生命を以て、 <sup>もつ</sup> ハリストス <sup>かみ</sup> 神に <sup>いたく</sup> 委託せん、



しゅ な んぢ に 。  
主 爾

司祭) <sup>けだし</sup> 蓋、 <sup>およ</sup> 凡そ <sup>こうえい</sup> 光榮 <sup>そんきふくはい</sup> 尊貴 <sup>なんぢちち</sup> 伏拜は <sup>こ</sup> 爾 <sup>せいしん</sup> 父と子と聖神に <sup>き</sup> 歸す、 <sup>いま</sup> 今も <sup>いつ</sup> 何時も <sup>よよ</sup> 世々に、



ア ミ ン。

【 第一カフィズマ 第一段 】



あくにんのはかりごとゆかざるひとはさい  
悪人謀行人福



わいなり、ア Ril イヤ、ア Ril イ



ヤ、ア Ril イヤ。



しゅはぎじんのみちをしる、あくにんのみちはほろ  
主義人途知悪人途滅



びん、ア Ril イヤ、ア Ril イヤ、アリ



ル イ ヤ 。

おそれしゆにつとめよ、おののきてそのまえ  
畏 主 勤 戦 其 前

によろこべよ、アリル イヤ、アリル イ

ヤ、アリル イヤ。

およそかれをたのむものはさいわいなり、  
凡 彼 侍 者 福

アリル イヤ、アリル イヤ、アリル

イヤ。

しゆやたてよ、わがかみや、われをすくいた給  
主 立 吾 神 我 救 給

まえ、アリル イヤ、アリル イヤ、

アリル イヤ。

すくいしゆによるなんぢのこうふくはなんぢのた  
救 主 依 爾 降 福 爾 民

みにあり、アリル イヤ、アリル イ

ヤ、アリル イヤ。

こう え い は ち ち と こ と せ い し ん に き す 、 い ま も  
 光 榮 父 子 聖 神 歸 今  
 い つ も よ よ に 、 ア ミ ン 。 ア リ ル イ ヤ 、 ア  
 何 時 世 世  
 リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 。

【 小聯禱 】

司祭) われらまたまたあんわ <sup>しゅ いの</sup> 我等復又安和にして主に禱らん、

しゅ あ わ れ め よ 。  
 主 憐

司祭) <sup>かみ なんぢ おんちやう もつ われら たす すく あわれ まも</sup> 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、

しゅ あ わ れ め よ 。  
 主 憐

司祭) <sup>しせいしけつ いた さんび われら こうえい ちよさい しょうしんちよ えいていどうちよ</sup> 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

<sup>しよせいじん きおく われらおのれ みおよ たがい おのおの み もつ ならび ことごと われら</sup> 諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

<sup>いのち もつ かみ いたく</sup> 生命を以て、ハリストス神に委託せん、

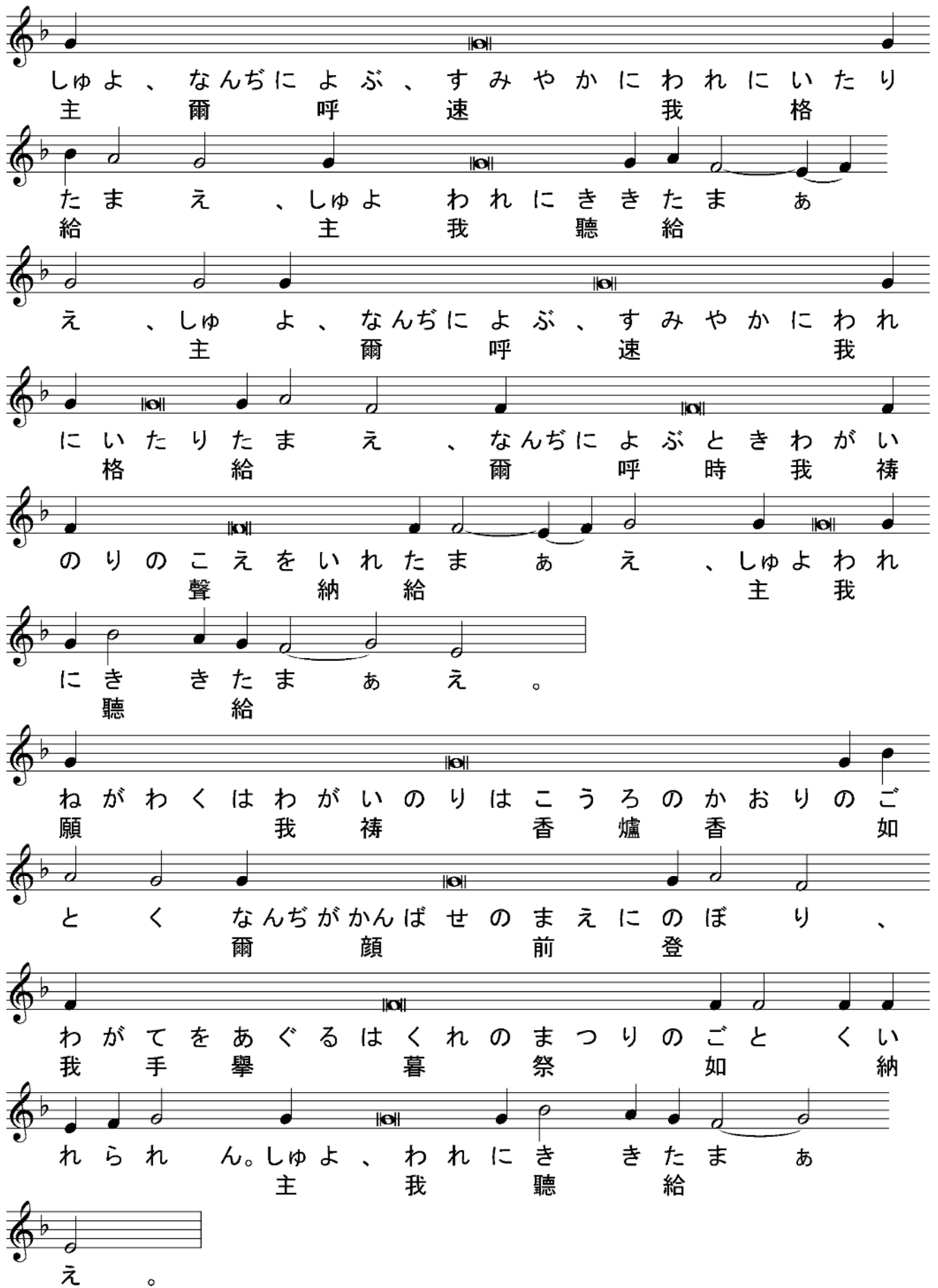
しゅ な ん ぢ に 。  
 主 爾

司祭) <sup>けだしけんべいおよ くに けんろう こうえい なんぢちち こ せいしん き いま いつ よよ</sup> 蓋権柄及び國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、

ア ミ ン 。

【 第140聖詠 (主よ爾に籲ぶ) 第2調 】





しゅよ、なんぢによぶ、すみやかにわれにいたり格  
 主 爾 呼 速 我 格  
 たまえ、しゅよわれにききたまあえ  
 給 主 我 聽 給 あ  
 え、しゅよ、なんぢによぶ、すみやかにわれ  
 主 爾 呼 速 我  
 にいたりたまえ、なんぢによぶときわがい祈  
 格 給 爾 呼 時 我 祈  
 のりのこえをいれたたまあえ、しゅよわれ  
 の 聲 納 給 主 我  
 にききたまあえ。  
 聽 給 え。  
 ねがわくはわがいのりはこうろのかおりのご  
 願 我 祈 香 爐 香 祈 の ご  
 とくなんぢがかんばせのまえにのぼり、  
 爾 顔 前 登  
 わがてをあぐるはくれのまつりのごとくい納  
 我 手 舉 暮 祭 如 納  
 れられん。しゅよ、われにききたまあえ  
 主 我 聽 給 あ  
 え。

誦經) しゅ わくち まもり お わくちびる もん ふせ たま わ こころ よこしま ことば かたぶ  
 主よ、我が口に 衛 を置き、我が 唇 の門を扞ぎ給え、我が 心 に 邪 なる 言 に 傾

きて、不法を 行 う人と共に、罪の推 誘せしむる母れ、願わくは我は彼等の甘味を嘗め

ざらん。義人は我を罰すべし、是れ矜 恤 なり、我を譴むべし、是れ極と 美 しき 膏、我  
が 首 を悩ます能わざる者なり、唯我が 禱 は彼等の悪事に敵す。彼等の 首 長は巖石の  
間 に散じ、我が 言 の 柔 和なるを聴く。我等を土の如く 斫り 砕き、我が 骨 は地獄の口  
に 散りて落つ。主よ、主よ、唯我が目は 爾 を仰ぎ、我 爾 を恃む、我が 靈 を 退 くる母  
れ。我が爲に 設けられし 罫、不法者の 網より我を 護り 給え。不虔者は 己 の 網に 罹り、  
唯 我は 過ぐるを得ん。

【 第141聖詠 】

我が 聲を以て主に呼び、我が 聲を以て主に 禱り、我が 禱 を其 前に 注ぎ、我が 憂 を  
其 前に 顯 せり。我が 靈 の 衷に 弱りし時、爾 は我の 途を知れり、我が行く 路に於て、  
彼等は 竊 に我が爲に 網を 設けたり。我 右に目を 注ぐに、一人も我を 認むる者なし、我  
に 遁るる 所なく、我が 靈 を 顧 る者なし。主よ、我 爾 に呼びて云えり、爾 は我の  
避 所なり、生ける者の地に於いて 我の 分なり。我が呼ぶを 聴き 給え、我 甚 弱りたれば  
なり、我を 迫 害する者より 救い 給え、彼等は我より 強ければなり。

句⑩ 我が 靈 を 獄より引き出して、我に 爾 の名を 讚 榮せしめ給え。

讚詞⑩ 來りて、世の無き先に父より生れし神の 言、童 貞 女マリヤより身を取りし者に 伏 拜  
せん。蓋 彼は 親ら 望みし如く、十 字 架を 忍びて、葬 に付されたり、死より 復 活し  
て、我 迷える人を 救い 給えり。

句⑨ 爾 恩を我に 賜わん時、義人は我を 環らん。

讚詞⑨ ハリストス我が 救 世 主は我等を 罪する 書 券を 十 字 架に 釘うちて之を 抹し、死の 權  
を 空しくし 給えり。我等其 三 日目の 復 活に 伏 拜す。

句⑧ 主よ、我 深き 處より 爾 に呼ぶ。主よ、我が 聲を 聴き 給え、

讚詞⑧ 我等は 天使 首と 共にハリストスの 復 活を 讚め 歌わん。蓋 彼は我等の 靈 の 贖 罪  
主 及び 救 世 主なり、且 畏るべき 光 榮と 勁き 能力とを以て 還 來りて、其 造りし 世界  
を 審 判せん。

句⑦ <sup>ねが なんぢ みみ わ いのり こえ き い</sup> 願わくは爾の耳は我が禱の聲を聞き納れん。

讃詞⑦ <sup>てんし なんぢじゅうじか てい ほうむ しゅさい つた おんなたち い きた</sup> 天使は爾十字架に釘せられて葬られたる主宰を傳えて、女等に言えり、來りて、

<sup>しゅ ふ ところ み けだしかれ い ごと ふくかつ ぜんのうしや ゆえ われら</sup> 主の臥したる處を觀よ、蓋彼は言いし如く復活せり、全能者なればなり。故に我等

<sup>なんぢゆいいちふし もの ふくはい いのち たま われら あわれ たま</sup> 爾惟一不死の者に伏拜す。生命を賜うハリストスよ、我等を憐み給え。

句⑥ <sup>しゅ も なんぢふほう ただ しゅ だれ よ た しか なんぢ ゆるし ひと なんぢ</sup> 主よ、若し爾不法を糺さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾

<sup>まえ つつし たため</sup> の前に敬まん爲なり。

讃詞⑥ <sup>なんぢ じゅうじか き よ のろい むな なんぢ ほうむり し けん ほろぼ なんぢ ふく</sup> 爾の十字架にて木に縁る詛を空しくし、爾の葬にて死の權を滅し、爾の復

<sup>かつ じんるい てら たま ゆえ われらなんぢ よ おんしゅ わ かみ こうえい なんぢ</sup> 活にて人類を照し給えり。故に我等爾に籲ぶ、恩主ハリストス吾が神よ、光榮は爾

<sup>き</sup> に歸す。

句⑤ <sup>われしゅ のぞ わ たましいしゅ のぞ われかれ ことば たの</sup> 我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を待む。

讃詞⑤ <sup>しゅ し もん おそれ よ なんぢ たため ひら ぢごく かどもり なんぢ み おそ けだし</sup> 主よ、死の門は畏懼に因りて爾の爲に啓け、地獄の門衛は爾を見て懼れたり、蓋

<sup>なんぢ あかがね もん やぶ くるがね はしら くじ われら くらやみ し かげ ひ いだ われら</sup> 爾は銅の門を破り、鐵の柱を折き、我等を幽闇と死の蔭より引き出し、我等

<sup>なわめ た たま</sup> の縛を截ち給えり。

句④ <sup>わ たましいしゅ ま ばんにん あさ ま ばんにん あさ ま はなはだ</sup> 我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

讃詞④ <sup>すくい うた うた くち ひと よ みなきた しゅ いえ ふくはい い き</sup> 救の歌を歌いて、口を齋しくして籲ばん、皆來りて、主の家に伏拜して曰わん、木の

<sup>うえ てい し ふくかつ ちち ふところ いま しゅ われら つみ きよ たま</sup> 上に釘せられて、死より復活し、父の懷に在す主よ、我等の罪を淨め給え。

句③ <sup>ねが しゅ たの けだしあわれみ しゅ おおい あがない かれ かれ</sup> 願わくはイスライリは主を恃まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼

<sup>そのことごと ふほう あがな</sup> はイスライリを其悉くの不法より贖わん。

讃詞③ <sup>たより もの けんご たのみ つみ おちい もの すくい ほ うた いさぎよ しょう</sup> 倚頼なき者の堅固なる憑恃、罪に陥る者の拯救たる讃め歌わるるマリヤ、潔き生

<sup>しんぢよ わ こ いのり う なんぢ はは きとう もつ われ しょうがいおか しょうがい ゆるし</sup> 神女よ、我が此の禱を受けて、爾の母たる祈禱を以て我に生涯犯しし諸罪の赦

<sup>え たま ちよさい なんぢ おおい あわれみ よ われ きなんおよ しょうらい ていざい</sup> を獲しめ給え。女宰よ、爾の大なる憐に由りて、我を危難及び將來の定罪よ

<sup>すく たま</sup> り救い給え。

句② <sup>ばんみん しゅ ほ あ ばんぞく かれ あが ほ</sup> 萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ、

讃詞② わ ざいせい ひ あ あ ざいあく み きょうあく はなはだ われ みだ よ  
我が在世の日は悪し、悪くして罪惡に充つ、凶惡なるサタナ甚しく我を擾すに因

かみ はは なんぢわれ そのがい まぬか しせい もの なんぢわれ そのくち のが たま  
る。神の母よ、爾我を其害より免れしめ、至聖なる者よ、爾我を其口より脱し給

われことごと たのみ なんぢ お なんぢ ねつせつ きとう もつ われ すく たま  
え、我悉くの憑恃を爾に負わせたればなり。爾の熱切なる祈禱を以て我を救い給  
え。

句① けだしかれ われら ほどこ あわれみ おおい しゅ しんじつ なが そんな  
蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

讃詞① はぢ え てんたつしゃ よろこ しぜん しょうしんぢよ よろこ せかい きよめ よろこ  
耻を得ざる轉達者よ、慶べ、至善なる生神女よ、慶べ、世界の蠲潔よ、慶べ、

かな もの よろこび ぐふう あ もの みなど よろこ およ きなん あ もの ふじよしゃ よろこ  
悲しむ者の喜、颶風に遭う者の停泊よ、慶べ、凡そ危難に在る者の扶助者よ、慶

どうていちよ じゅんけつ ぢよさい われ ことごと くなん まも たま  
べ。童貞女・純潔なる女宰よ、我をも悉くの苦難より護り給え。

【 ドグマチカ (生神女讃詞) 第2調 】

こう え い は ち ち と こ と せ い しんにきす、いまも  
光 榮 父 子 聖 神 歸 今

いつ も よ よ お に、ア ミ ン。  
何 時 世 世

おん ちょう き た り て ほ う り つ の か げ は さ れ り、  
恩 寵 來 法 律 影 去

け だ し も ゆ る い ば ら の や け ざ り し ご と お  
蓋 燃 棘 焚 如

く、ど う て い ぢ よ は う み し の ち も な が く ど う  
童 貞 女 生 後 永 童

て い ぢ よ な り、ほ の お の は し ら の か わ り に  
貞 女 焰 柱 代

ぎ の ひ は い で て ひ か あ る、モ イ セ イ の か 代  
義 日 出 光

わ あり い に わ が た ま し い の き ゅ う し ゃ は り ス ト ス は あ  
我 靈 救 者 現  
ら わ れ た あ り 。

司祭) <sup>えいち</sup> 睿智、<sup>つつし</sup> 肅 <sup>た</sup> みて立て、

【 聖ソフロニイの祝文 】

せ い に し て ふ く た る じ ょ う せ い な る て ん の ち ち の  
聖 福 常 生 天 父  
せ い な る こ う え い の お だ や か な る ひ か り イ イ  
聖 光 榮 穩 光  
ス ス ハ リ ス ト ス よ 、 わ れ ら ひ の い り に い た り く  
我 等 日 入 至 暮  
れ の ひ か り を み て 、 か み ち ち と こ と せ い し ん  
光 見 神 父 子 聖 神  
を う と お う 。 い の ち を た も う か み の こ  
歌 生 命 賜 神 子  
よ 、 な ん ぢ は い つ も け い け ん の こ え に て う た わ  
爾 何 時 敬 虔 聲 歌  
る べ し 、 ゆ え に せ か い は な ん ぢ を あ が め  
故 世 界 爾 崇  
ほ む 。

【 大プロキメン 第6調 】

司祭) <sup>つつし</sup> 謹 <sup>き</sup> みて <sup>しゅうじん</sup> 聴く <sup>へいあん</sup> べし、<sup>えいち</sup> 衆 人に平安、睿智、

誦經) <sup>プロキメン</sup> 提 <sup>しゅ</sup> 綱、<sup>おう</sup> 主は王たり、<sup>かれ</sup> 彼は <sup>いげん</sup> 威嚴 <sup>き</sup> を衣たり、



しゅ は お う た り 、 か れ は い げ ん を き た  
主 王 彼 威 嚴 衣

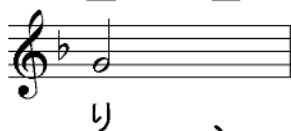


り、

誦經) <sup>しゅ</sup> 主は <sup>のうりよく</sup> 能力 <sup>き</sup> を衣、<sup>またこれ</sup> 又 <sup>おび</sup> 之を帯にせり、



しゅ は お う た り 、 か れ は い げ ん を き た  
主 王 彼 威 嚴 衣

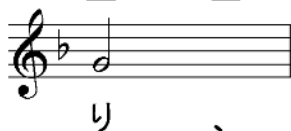


り、

誦經) <sup>ゆえ</sup> 故に <sup>せかい</sup> 世界は <sup>けんご</sup> 堅固にして <sup>うご</sup> 動かざらん、



しゅ は お う た り 、 か れ は い げ ん を き た  
主 王 彼 威 嚴 衣



り、

誦經) <sup>しゅ</sup> 主よ、<sup>せいとく</sup> 聖徳は <sup>なんぢ</sup> 爾 <sup>いえ</sup> の家 <sup>ぞく</sup> に屬して <sup>えいえん</sup> 永遠 <sup>いた</sup> に至らん、

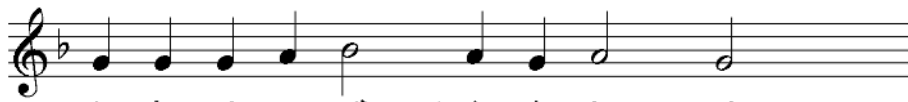


しゅ は お う た り 、 か れ は い げ ん を き た  
主 王 彼 威 嚴 衣



り、

誦經) <sup>しゅ</sup> 主は <sup>おう</sup> 王たり、



かれはいげんをきたり。  
 彼 威 嚴 衣

【 重聯禱 】

司祭) <sup>かみ なんぢ おおい あわれみ よ われら あわれ なんぢ いの き い あわれ</sup>  
 神よ、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
 主 憐 主 憐 主 憐

司祭) <sup>またわがくに てんのうおよ くに つかさど もの ため いの</sup>  
 又我國の天皇及び國を司る者の爲に禱る、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
 主 憐 主 憐 主 憐

司祭) <sup>またきょうかい つかさど そんき われら ぜんにつぼん ふしゅきょう およ お</sup>  
 又教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィム、及びハリストスに於  
<sup>ことごと われら けいてい ため いの</sup>  
 ける悉くの我等の兄弟の爲に禱る、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
 主 憐 主 憐 主 憐

司祭) <sup>またつね きおく ふく こ せいどう こんりゅうしゃ およ すで ねむ ことごと ふそけいてい</sup>  
 又恒に記憶せらるる福たる此の聖堂の建立者、及び既に寝りし悉くの父祖兄弟、  
<sup>こ ところ しょほう ほうむ せいきょう もの ため いの</sup>  
 此の處と諸方とに葬られたる正教の者の爲に禱る、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
 主 憐 主 憐 主 憐

司祭) <sup>またかみ しょぼく こ せいどう けいてい じれん せいめい へいあん そうけん きゅうしょく けんこ かんゆう</sup>  
 又神の諸僕此の聖堂の兄弟に、慈憐、生命、平安、壯健、救贖、眷顧、寛宥、  
<sup>およ しょざい ゆるし たま ため いの</sup>  
 及び諸罪の赦を賜わんが爲に禱る、



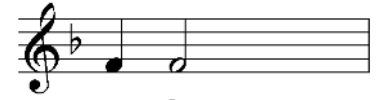
しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
 主 憐 主 憐 主 憐

司祭) <sup>またこ せいどう もの たてまつ ぜんぎょう おこな これ ろう これ うた およ ここ た</sup>  
 又此の聖堂に物を獻り、善業を行い、之に勞し、之に歌い、及び此に立ちて  
<sup>なんぢ おおい ゆたか あわれみ あお のぞ もの ため いの</sup>  
 爾の大にして豊なる憐を仰ぎ望む者の爲に禱る、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅ あわれ め よ 。  
主 憐 主 憐 主 憐

司祭) <sup>けだしなんぢ じれん ひと あい かみ われらこうえい なんぢちち こ せいしん けん いま</sup>  
蓋 爾 は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を 爾 父と子と聖神に獻ず、今も  
<sup>いつ よよ</sup>  
何時も世に、



ア ミ ン。

誦經) <sup>しゅ われら まも つみ こ くれ わた たま しゅわ せんそ かみ なんぢ あが ほ</sup>  
主よ、我等を守り罪なくして此の晩を度らせ給え、主吾が先祖の神よ、 爾 は崇め讃  
<sup>なんぢ な よよ とうと うた</sup>  
められ 爾 の名は世に 尊 み歌わる、アミン。

<sup>しゅ なんぢ たの よ なんぢ あわれみ われら た たま しゅ なんぢ あが ほ</sup>  
主よ、 爾 を恃むに因りて、 爾 の 憐 を我等に垂れ給え、主よ、 爾 は崇め讃めらる、  
<sup>なんぢ いましめ われ おし たま しゅさい なんぢ あがめほ なんぢ いましめ われ さと たま</sup>  
爾 の 誠 を我に訓え給え、主宰よ、 爾 は崇讃めらる、 爾 の 誠 を我に悟らせ給  
<sup>せい もの なんぢ あがめほ なんぢ いましめ われ てら たま</sup>  
え、聖なる者よ、 爾 は崇讃めらる、 爾 の 誠 にて我を照し給え。

<sup>しゅ なんぢ あわれみ よよ あ なんぢ て つく もの す なか ほまれ なんぢ き</sup>  
主よ、 爾 の 憐 は世に在り、 爾 の手の造りし物を棄つる勿れ、 讃 は 爾 に歸し、  
<sup>うた なんぢ き こうえい なんぢちち こ せいしん き いま いつ よよ</sup>  
歌は 爾 に歸し、光榮は 爾 父と子と聖神に歸す、今も何時も世に、アミン。

【 増聯禱 】

司祭) <sup>われらしゅ まえ わ くれ いのり ま くわ</sup>  
我等主の前に吾が晩の 禱 を増し加えん、



しゅあわれ めよ 。  
主 憐

司祭) <sup>かみ なんぢ おんちよう もつ われら たす すく あわれ まも</sup>  
神よ、 爾 の恩 寵を以て、我等を助け救い 憐 み護れよ、



しゅ あわれ めよ 。  
主 憐

司祭) <sup>こ くれ じゅんぜん せいせい へいあん むざい しゅ もと</sup>  
此の晩の純全・成聖・平安・無罪ならんことを主に求む、



しゅ た ま え よ 。  
主 賜



司祭) <sup>へいあん てんし ただ きょうどうし わ れいたい しゅごしゃ たま しゅ もと</sup> 平安の天使、正しき教導師、吾が靈體の守護者を賜わんことを主に求む、



司祭) <sup>われら つみ あやまち なだ ゆる しゅ もと</sup> 我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、



司祭) <sup>われら たましい ぜん えき こと およ せかい へいあん たま しゅ もと</sup> 我等の靈に善にして益ある事、及び世界に平安を賜わんことを主に求む、



司祭) <sup>われら いのち よじつ へいあん つうかい もつ おわ しゅ もと</sup> 我等の生命の餘日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、



司祭) <sup>われら いのち おわり かな やまい はぢ へいあん およ</sup> 我等の生命の終がハリストティアニンに適い、疾なく、耻なく、平安なること、及びハ  
<sup>リストスのおそ べ しんばん おい よろ こたえ たま もと</sup>リストスの畏る可き審判に於て宜しき對をなすを賜わんことを求む、



司祭) <sup>しせいしけつ いた さんび われら こうえい ぢよさい しょうしんぢよ えいていどうぢよ</sup> 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、  
<sup>しよせいじん きおく われらおのれ みおよ たがい おのおの み もつ ならび ことごと われら</sup>諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の  
<sup>いのち もつ かみ いたく</sup>生命を以て、ハリストス神に委託せん、



司祭) <sup>けだしなんぢ ぜん ひと あい かみ われら こうえい なんぢちち こ せいしん けん いま</sup> 蓋爾は善にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も  
<sup>いつ よよ</sup>何時も世に、



司祭) <sup>しゅうじん へいあん</sup> 衆人に平安



司祭) <sup>われら こうべ しゅ かが</sup> 我等の首を主に屈めん



司祭) (黙經) <sup>しゅわ かみ てん かが じんるい すく ため くだ もの なんぢ しよぼく なんぢ</sup> 主我が神、天を屈めて人類を救うが爲に降りし者よ、爾の諸僕と爾の

<sup>しぎょう かえり たま けだしなんぢ しよぼく なんぢおそ ひと あい</sup> 嗣業とを顧み給え、蓋爾の諸僕は、爾畏るべくして人を愛する

<sup>しんぱんしゃ こうべ かが おのれ くび ふ ひと たすけ ま すなわちなんぢ あわれみ</sup> 審判者に首を屈め、己の頸を伏し、人の助を俟たず、乃爾の憐を

<sup>ま なんぢ すくい あお もと かれら つね まも かれら こ ゆうべ つぎ いた</sup> 俟ち、爾の救を仰ぐ、求む彼等を恒に護り、彼等を此の夕にも、次て至る

<sup>よる およそ てきおよそ あくま かんぼう むな しりよ あ いねん まも たま</sup> 夜にも、凡の敵凡の悪魔の姦謀と虚しき思慮と悪しき意念とより護り給え、)

<sup>ねが なんぢちち こ せいしん くに けんぺい さんようさんえい いま いつ よよ</sup> 願わくは爾父と子と聖神の國の權柄は讚揚讚榮せられん、今も何時も世世に、



【 挿句讚頌 第2調 】

誦經) <sup>きゅうせいしゅ なんぢ ふくかつ ぜんせかい てら なんぢ おのれ ぞうぶつ め たま</sup> ハリストス救世主よ、爾の復活は全世界を照せり、爾は己の造物を召し給え

<sup>ぜんのう しゅ こうえい なんぢ き</sup> り。全能の主よ、光榮は爾に歸す。

句) <sup>しゅ おう かれ いげん き</sup> 主は王たり、彼は威嚴を衣たり。

讚頌) <sup>きゅうせいしゅ なんぢ き き よ のろい むな なんぢ ほうむり し けん ほろぼ</sup> 救世主よ、爾は木にて木に縁る詛を空しくし、爾の葬にて死の權を滅し、

<sup>なんぢ ふくかつ わ やから てら たま ゆえ われらなんぢ よ いのち ほどこ わ</sup> 爾の復活にて吾が族を照し給えり。故に我等爾に呼ぶ、生命を施すハリストス我が

<sup>かみ こうえい なんぢ き</sup> 神よ、光榮は爾に歸す。

句 ゆえ せかい けんご うご  
故に世界は堅固にして動かざらん。

讃頌 なんぢ じゅうじか てい もの あらわ ぞうぶつ うるわ へんえき  
ハリストスよ、爾は十字架に釘せらるる者と顯れて、造物の美しきを變易せり。

ただへいそつ ざんにん ほこ もつ なんぢ わき さ じん なんぢ けん し はか  
惟兵卒は残忍にして戈を以て爾の脅を刺し、エウレイ人は爾の權を知らずして墓  
ふういん もと じれん よ ほうわり う みつかめ ふくかつ しゅ こうえい  
を封印せんことを求めたり。慈憐に由りて葬を受け、三日目に復活せし主よ、光榮は  
なんぢ き  
爾に歸す。

句 しゅ せいとく なんぢ いえ ぞく えいえん いた  
主よ、聖徳は爾の家に屬して永遠に至らん。

讃頌 いのち ほどこ なんぢ し ぞく もの ため あまん くるしみ う ゆうのうしゃ  
生命を施すハリストスよ、爾は死に屬する者の爲に甘じて苦を受けて、有能者  
ちごく くだ かしこ なんぢ こうりん ま もの つよ もの て うば ちごく か  
として地獄に降り、彼處に爾の降臨を待つ者を強き者の手より奪いて、地獄に易えて  
らくえん す たま ゆえ なんぢ みつかめ ふくかつ さんよう われら しょざい きよめ おおい  
樂園に住むを賜えり。故に爾の三日目の復活を讃揚する我等にも諸罪の潔淨と大  
あわれみ あた たま  
なる憐とを與え給え。

こうえい ちち こ せいしん き いま いつ よよ  
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世に、アミン。

生神女讃詞 あああらた きせき いにしえ ことごと きせき まさ もの だれ おっと はは ばんぶつ  
嗚呼新なる奇跡、古の悉くの奇跡に勝る者や、誰か夫なき母が萬物  
たも しゅ う そくて いだ し こ さん かみ むね いた いさぎよ もの  
を有つ主を生みて、其手に抱くを知りたる、此の産は神の旨なり。至りて潔き者よ、  
なんぢ おきなご おのれ て いだ しゅ まえ はは いさみ もつ われらなんぢ とうと もの  
爾が嬰兒として己の手に抱きし主の前に母の勇を以て、我等爾を尊む者の  
たましい あわれ すく つね いの たま  
靈を憐みて救わんことを常に祈り給え。

奉神者シメオンの祝文 しゅさい いまなんぢ ことば したが なんぢ ぼく ゆる あんぜん ゆ  
主宰よ、今爾の言に循いて、爾の僕を釈し、安然として逝か

けだしわ め なんぢ すくい み なんぢ ばんみん まえ そな もの こ いほうじん たら  
しむ。蓋我が目は爾の救を見たり。爾が萬民の前に備えし者なり、是れ異邦人を照  
ひかり およ なんぢ たみ さかえ  
すの光、及び爾の民イズライリの榮なり。

聖三祝文 せい かみ せい ゆうき せい じょうせい もの われら あわれ  
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

せい かみ せい ゆうき せい じょうせい もの われら あわれ  
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

せい かみ せい ゆうき せい じょうせい もの われら あわれ  
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

こうえい ちち こ せいしん き いま いつ よよ  
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世に、アミン。

しせいさんしゃ われら あわれ しゅ われら つみ いさぎよ しゅさい われら あやまち ゆる  
至聖三者よ、我等を憐め。主よ、我等の罪を潔くせよ。主宰よ、我等の愆を赦

せい もの のぞ われら やまい いや たま ことごと なんぢ な よ  
せ。聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給え。悉く爾の名に因る。

しゅ あわれ しゅ あわれ しゅ あわれ  
主、憐めよ。主、憐めよ。主、憐めよ。

こうえい ちち こ せいしん き いま いつ よよ  
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世に。アミン。

てん いま われら ちち ねがわく なんぢ な せい なんぢ くに きた なんぢ むね てん  
天に在す我等の父よ、願は爾の名は聖とせられ、爾の国は來り、爾の旨は天

おこな ごと ち おこな わ にちよう かに こんにちわれら あた たま われら  
に行わるるが如く、地にも行われん。我が日用の糧を今日我等に與え給え。我等に

おいめ もの われらゆる ごと われら おいめ ゆる たま われら いざない みちび なおわれら  
債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え。我等を誘に導かず、猶我等

きようあく すく たま  
を凶惡より救い給え。

司祭) けだしくに けんとう こうえい なんぢちち こ せいしん き いま いつ よよ  
蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世に。



【 主日の發放讃詞 第2調 】

し せ ざ る い の ち よ 、 なんぢ し に く だ り し  
死 生 命 爾 死 降

と お き 、 か み の せ い の ひ か り に て ぢ ご  
時 お き 神 性 光 地 獄

く を こ ろ せ え り 。 し せ し も の を ち か よ  
殺 死 者 地 下

り ふ く か つ せ し め し と お き 、 てんぐん み な  
復 活 時 お き 天 軍 皆

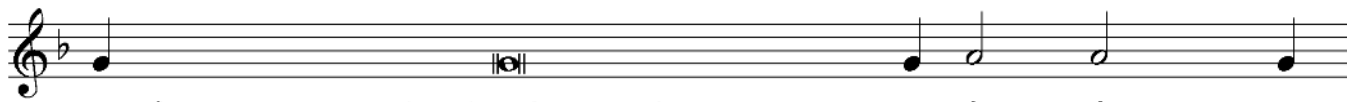
よ び て い え え り 、 い の ち を た も う しゅ  
呼 日 生 命 賜 主

ハリスト スわが か み よ 、 こう え い は な んぢ に  
吾 神 光 榮 爾



き い す 。

【 生神女讃詞 第2調 】



こう え い は ち ち と こ と せ い し ん に き す 、 い 今  
光 榮 父 子 聖 神 歸



ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。  
何 時 世 世



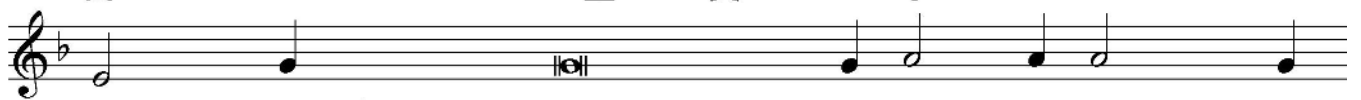
しょう し ん ぢ ょ よ 、 なん ぢ の お う ぎ は み な ち え に  
生 神 女 爾 奥 義 皆 智 慧



こ ゆ 、 み な し え い な あ り 。 て い け つ の  
超 皆 至 榮 貞 潔



ふう ぜ ら れ 、 ど う て い の ま も ら る る  
封 童 貞 守



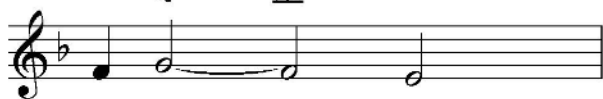
に 、 なん ぢ は じ つ の は は と し ら れ て 、 ま 眞  
爾 實 母 知



こ と の か み を う み た ま え り 。 か れ に わ 我  
神 生 給 彼 我



れ ら の た ま し い の す く わ れ ん こ と を い の り  
等 靈 救 祈



た ま あ え 。  
給

司祭) <sup>かみわれら たのみ</sup>ハリストス神我等の<sup>こうえい なんぢ き</sup>侍よ、<sup>こうえい なんぢ き</sup>光榮は爾に歸す、<sup>こうえい なんぢ き</sup>光榮は爾に歸す、

こう え い は ち ち と こ と せ い し ん に き す 、 い ま も  
光 榮 父 子 聖 神 歸 今

い つ も よ よ に 、 ア ミ ン 。 し ゅ あ わ れ め 、 し ゅ  
何 時 世 世 主 憐 主

あ わ れ め 、 し ゅ あ わ れ め よ 、 ふ く を く だ  
憐 主 憐 福 降

せ 。

司祭) <sup>し</sup>死より復 <sup>ふくかつ</sup>活せし <sup>われら</sup>ハリストス <sup>まこと</sup>我等の <sup>かみ</sup>眞の神は、 <sup>そのしじょう</sup>其至 <sup>はは</sup>淨なる <sup>はは</sup>母、 <sup>こうえい</sup>光榮にして <sup>さんび</sup>讚美たる <sup>せい</sup>聖

<sup>しと</sup>使徒、 <sup>こくしょうほうしん</sup>克肖 <sup>わがしよしんぶ</sup>捧神なる <sup>およ</sup>我諸 <sup>しよせいじん</sup>神父、 <sup>きとう</sup>( 某 ) 及び諸 <sup>より</sup>聖人の <sup>われら</sup>祈禱に <sup>あわれ</sup>因て <sup>たま</sup>我等を <sup>あわれ</sup>憐み給

<sup>ぜん</sup>わん。 <sup>ひと</sup>善にして <sup>あい</sup>人を <sup>しゆ</sup>愛する <sup>しゆ</sup>主なればなり、

ア ミ ン 。

【 萬壽詞 】

か み よ 、 わ が く に の て ん の お う 、 お よ び  
神 我 國 天 皇 及

く に を つ か さ ど る も の 、 わ れ ら の ふ し ゅ  
國 司 者 我 等 府 主

き ょ う セ ラ フ ィ ム 、 お よ び こ と ご と く の せ い き ょ う  
教 及 悉 正 教

の ハ リ ス テ ィ ア ニ ン ら を 、 い く と せ に も ま も り  
等 幾 歳 護

た ま え 。  
給

The image shows a musical staff with a treble clef and a key signature of one flat (B-flat). The melody consists of three notes: a quarter note on G4, a quarter note on A4, and a quarter note on B4. The lyrics 'た ま え 。' are written below the notes, and '給' is written below the first note.